

日本株は「2」と「10」の壁を越えられるか？

ポイント① 日本株に立ちはだかる「2」と「10」の壁

日本株は近年、「2」と「10」の壁が立ちはだかってきました。「2」の壁は日本株が米国株の年間パフォーマンスを上回る連続記録がバブル崩壊以降、「2年」で止まるというジンクスです。「10」は日本株のROE（稼ぐ力を示す指標）が「10%」を越えられない状態が長期化していることを意味します。日本株はこうした壁を乗り越えることができるのでしょうか。

米著名投資家のウォーレン・バフェット氏が「日本株への追加投資を検討したい」と表明するなど、日本株を見直す動きが一部で高まりつつあります。仮に2年連続で日本株が米国株をアウトパフォームすることになれば、21世紀以降では小泉政権下で構造改革期待が高まった04～05年、安倍政権が打ち出したアベノミクスへの期待が高まった12～13年以来的のこととなります（右上図）。

ポイント② 東証主導の企業改革への期待高まる

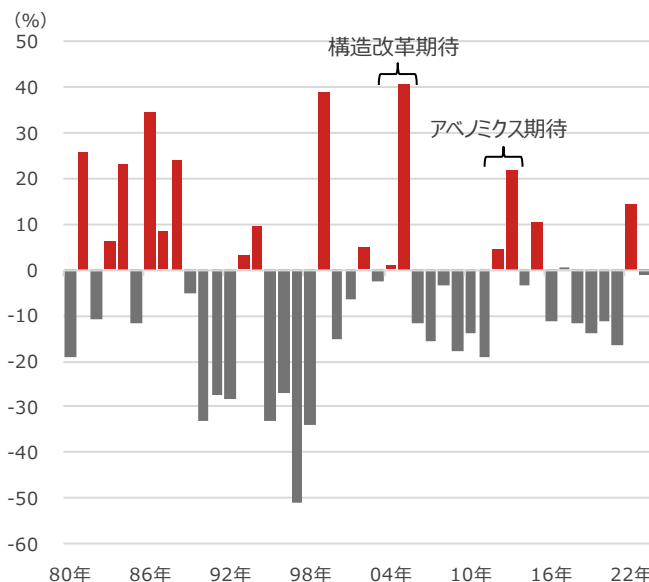
日本株が「2」の壁を乗り越えるためには、やはり日本企業の収益力向上が不可欠と考えられます。日本株は先進国株と比べROEが低く、こうした稼ぐ力の弱さが、日本株の評価が高まらない要因の一つと考えられます（右下図）。ただ、長年日本株の課題であったROE向上を促すような取り組みが東証（東京証券取引所）主導で動き出したことは明るい材料です。

東証は3月31日、PBR（株価純資産倍率）が1倍を下回る上場企業などに、資本コストや株価を意識した経営の実現を要請しました。今後日本企業の間で、増配や自社株買いの強化、設備投資などを通じ、ROEやPBRの向上を図る動きが広がりそうです。日本株が2つの「壁」を乗り越える取り組みがついに始動しました。

シニア・ストラテジスト 石黒英之

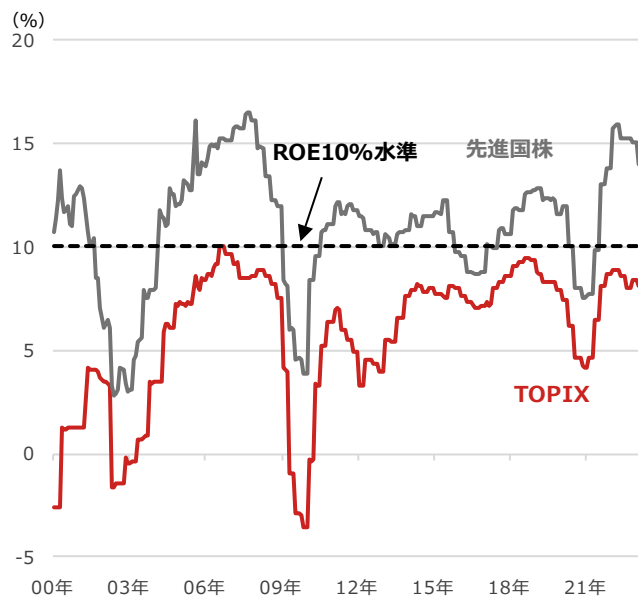


TOPIX（東証株価指数）と
S&P500種株価指数の年間騰落率差



期間：1980年～2023年、年次
・2023年は4月14日まで
・騰落率差はTOPIX-S&P500種株価指数
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

TOPIXと先進国株の実績ROE（自己資本利益率）



期間：2000年1月末～2023年3月末、月次
・先進国株：MSCI World Index（米ドルベース）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。